

発刊にあたって

神奈川県自然環境保全センターは、森林を中心とした自然環境の保全や再生を推進するため、研究、普及、事業実施の部門を備えた中核組織として、平成 12 年度に創設されました。様々な森林環境に関わる問題に対応するために、当センターでは研究機関や大学及び行政機関等多くの関係者のご支援、ご協力を得ながら保全対策を実施してまいりました。

「自然環境保全センター報告」は、このような業務から得られた研究成果、自然情報及び知見を、県民及び他の行政機関等に提供するとともに、記録・保存することを目的に作成しております。

神奈川県下において、原生的な自然を有する丹沢大山地域では、自然環境の劣化が依然として継続しており、県では「丹沢大山自然再生基本構想」に基づき策定した「丹沢大山自然再生計画（神奈川県）」を 2007 年（平成 19 年度）より実施し、ブナ林の再生、自然公園の適正利用、野生生物の保護管理、あるいは県有林の整備や管理など様々な事業に取り組んでいます。

今回発行する第 8 号では、調査・研究報告として「神奈川県におけるスギ林の着花状況と花粉飛散予測」や「2008 年度・2009 年度神奈川県ニホンジカ保護管理事業における丹沢山地のニホンジカ個体群調査報告」のほか、事業報告として「かながわパークレンジャーの活動報告」や「箱根地域におけるオオハンゴンソウの生育状況調査と駆除活動」なども併せて紹介しております。

当センターでは、今後とも自然環境の保全と再生に関わる業務や研究内容の充実に努めるとともに、成果や業績につきましては、本報告書以外にもホームページなどで紹介しておりますので、ご意見をいただくとともに、業務等の参考としてご活用いただければ幸いです。

平成 23 年 8 月

神奈川県自然環境保全センター所長 益子 篤